

保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 古賀貞雄 編集者 西尾 達



負けられない戦い



たくさん集めて「せーの！」



Happy birthday



春に向かって走ってー



はじめてのもちつき



平成27年度

3号

vol.111

【写真を提供していただいた保育園】
しあわせの星、清水、恵愛ソレイユ、田島、豊庄保育園

「子ども・子育て新制度の問題点」はユーチューブ(YouTube)でご覧いただけます。
※PCだけでなくi-phone などのスマートフォンからも見る事ができます。

「新制度」の詳しい内容については

[ほいくせいど](#)

[検索](#)

を、クリック!



こどものえがお展	2
叙勲・表彰	3
福岡市保育士就職フェア	4~5
青年部30周年記念式典及び祝賀会	6
『ルポ 保育崩壊』学習会と講演	7
リレー回想	8

2015 こどものえがお展

～保育園で輝く こどもの写真がいっぱい～

今年も天神ソラリアプラザで、「2015こどものえがお展」が開催されました（H27年10/28～11/1）5日間で、4637人の親子が参加されました。



フォトコンテストでは、子どものかわいい姿の写真に『かわいいね～癒されますね～』『楽しそうにしていますね～』という声が聞かれました。中には、遠方よりお孫さんの写真を見に来られた祖父母の方がいました。『たくさんありますね～、どこにうちの孫がいるかわかりません・・・』といわれたので、一緒に探しました。見つかると、嬉しそうに、『かわいいね～来たかがありました』と、つぶやきの声が聞こえてきました。



手作りおもちゃコーナーでは、沢山の保育園にご協力して頂き、アイデアいっぱいのおもちゃが展示されました。子ども達は、使い方がわからなくても、手にとって遊び方を発見していました。



子育て相談コーナーの窓口を作っていたのですが、10月という時期もあり、入所についての質問が多かったです。中には、『保育園を増やして欲しい』『保育士が足りないとよく聞きますが、大丈夫ですか?』という保護者の声もありましたが、最後は、『先生方、頑張ってください』と、励ましの声もいただきました。



福岡市保育連盟のキャラクター『すまいるん』が登場すると、嬉しそうにそばに来て握手をしたり、一緒に会場を散歩したりと、大人気でした。

・・・たくさんの親子が笑顔でふれあえたひと時でした・・・

秋の叙勲 厚生労働大臣 表彰

祝
瑞宝双光章



幾代 高山
この度、因
らずも瑞宝双
光章という身
に余る榮譽を
戴きこの上な
い喜びに浸っ
ております。これもひとえに、長年に亘って
皆様方より頂いた御厚情と家族の支援のおか
げと深く感謝致しております。



和子 龍
この度、平
成二十七年秋
の叙勲に際し
瑞宝双光章の
榮譽に浴し身
に余る光栄と
感謝致しております。

顧みますと昭和二十七年を振り出しに、平

成の今日まで六十余年の長期に亘り保育の仕事に携わって参る事ができました。これもひとえに、ご支援・ご指導を頂きました皆々様のご厚情の賜と深い感謝の念で一杯です。心からお礼を申し上げます。保育の営みは、即効性のあるものではありませんが、その成果は蓄積され、人が人として育つ上での基盤となつていきます。「三つ子の魂 百まで」のことは忘れないうで、限らない未来に向かって育ちゆくことも達の笑顔やパワーを発条に、これからも元気に過ごして参りたいと思います。

祝
厚生労働大臣賞



三郎 江口
はからずもこのたび、主任保育士ともども厚生労働大臣表彰を受
けました。微
エミール保育園
園長 江口 三郎

キラキラと輝く瞳に、勇気と働く意欲を頂いていたのだと感慨深いものを感じています。これから、保育界を取り巻く環境はますます厳しいものになって行くと思われませんが、それ故に、保護者、子ども達にとつて一番心が安らぐ場所が保育園だと思われる様、養護と教育の大切さを若い先生方に伝え、共に歩いて行きたいと思えます。

力ながらも三十歳からこれまで、保育園の経営にかかわってきたからでしょう。数々の苦労話といたしたいところですが、本能的にはずっと楽をさせてもらいました。というのも、この四十数年待機児童が絶えることがなかったからです。園の経営上一番の心配ごととは園児集めですが、それから解放され保育に専念できることは有難いものです。もうひとつ心強いと思つていたのは、福岡市保育協会の存在です。いつも顔を合わせ、あらゆる情報を交換し、団結して難題に立ち向かえる組織があることは、園長の大きな支えとなっております。

これからも、この有利な環境を活かしながら、子どもたちのための最善の道を探っていきたいと考えています。



裕子 江口
お陰様で、この度厚生労働大臣表彰を受けることができました。感謝の気持ち

ちでいっぱいです。思えば四十四年前に、夫婦で保育園を設立したものの、まだ若くて何もわからず、周りの皆様にたくさん支えられてここまで保育を続けることができたように思います。我が子三人を育てながら、自分の好きな仕事ができ
てなによりでした。

特に自主性が育つモンテッソーリ教育に出会えたこと、アメリカの〇〇三歳のモンテッソーリ国際コースへ勉強に行けた事が最高の喜びでした。

今の幸せは、若い保育士会の皆さんからエネルギーをいただき、少しでも役に立つことです。大変なこともあったけれど、保育の仕事が続けてよかったと思つています。



敏子 井ノ玉
このたび、社会福祉功労厚生労働大臣表彰を授かりました。この吉報を受けた

時の印象は、それまでは、他人事と思つていたので、思いがけないものですが、昭和四十七年四月より四十四年間この道一筋に保育に携わってきた結果を頂いたのだと私事として実感致しました。

日々、可愛い園児との関わりに幸せを頂き、共に成長を味わえる仲間達との出会いに恵まれ、今日迄過ごして来られたことに感謝の気持ち溢れています。

おめでとう
ございます



保育園および園児をさまざまナリスクからサポートします



保育園経営には、さまざまナリスクが伴います。(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンボでは、保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップしています。また、それらを総合的に補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。保育者にとっては一般に比べて割安な掛金で補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先どうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社・三井住友海上火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンボ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

(引受保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社
(幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 公務第一課 TEL：03-3515-4133
(共同引受保険会社) 三井住友海上火災保険株式会社

このご案内は全私保連保険制度・園児総合保障共済制度の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパフレットをご覧ください。詳細は契約者である社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

福岡市保育士就職フェア

平成二十七年十月二十五日 福岡国際会議場

今回、福岡市保育協会では初の試みとなる個別ブースでの保育士就職フェアを開催しました。「福岡市の保育士不足を解消する為に、保育園の魅力・保育士の魅力を今以上に伝えたい」という思いを持った青年部が企画・運営をさせていただきました。初めての事に戸惑うことも多かったのですが、思いに共感していただいた園長先生方の励ましや、各方面の皆様の大なご協力をいただき盛会に終わることが出来ました。

ブースには六十九ヶ園もの園に参加していただきました。各園は保育士不足という問題を抱え、是が非でも保育士を採用したいという思いが強かったと思います。その気持ちを少し押さえていただき、「保育園の魅力・保育士のやりがい」を伝え、何とか保育士の分母を増やしていただきたい、という趣旨に共感し協力していただいたこと深く感謝いたします。各参加園がそれぞれにブースを賑やかに

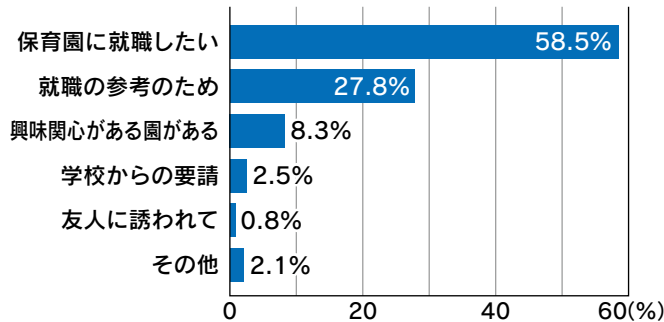
に裝飾し、和やかに来場者と会話をしている姿を拝見しますと、保育園を身近に感じ保育士になりたいと思った方がきつと増えただろうと実感しています。約二八〇名の来場者があり、全員がアンケートに「来場して良かった」と答えて下さいました。これも参加された各保育園のご尽力の結果だと思っております。改めて感謝申し上げます。

以下、来場者アンケートの一部と考察を記載しております。フェアは来年度も開催される予定です。このアンケート結果を踏まえ、良いフェアを開催し、保育園の魅力を伝えていきたいと思っています。

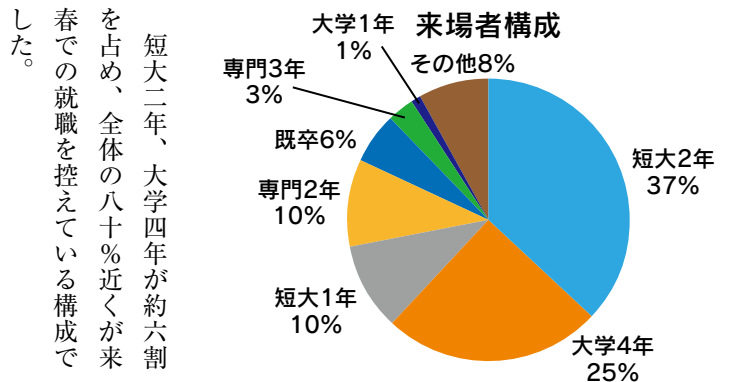
(青年部部长 高田史敬)



来場の目的



来場者構成

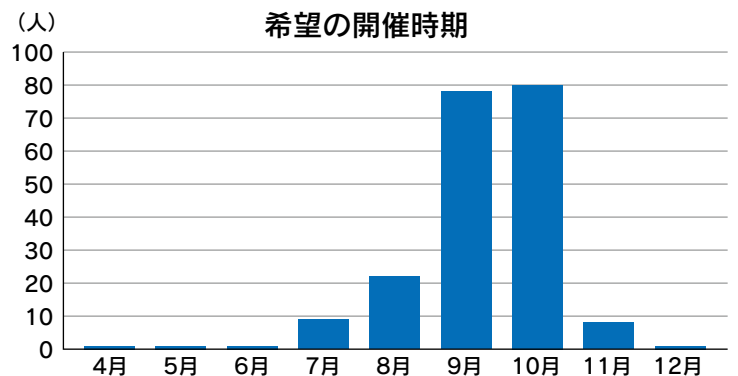


短大二年、大学四年が約六割を占め、全体の八十%近くが来春での就職を控えている構成でした。



過半数を超える人が、明確に保育園への就職を希望していません。就職の参考にした人も含めると、八十六%の人が強い就職希望または有力な就職先として検討しています。その他の来場目的として、転職、引率、実習園参考、子どもに関わる仕事に就きたいなどがありました。

希望の開催時期



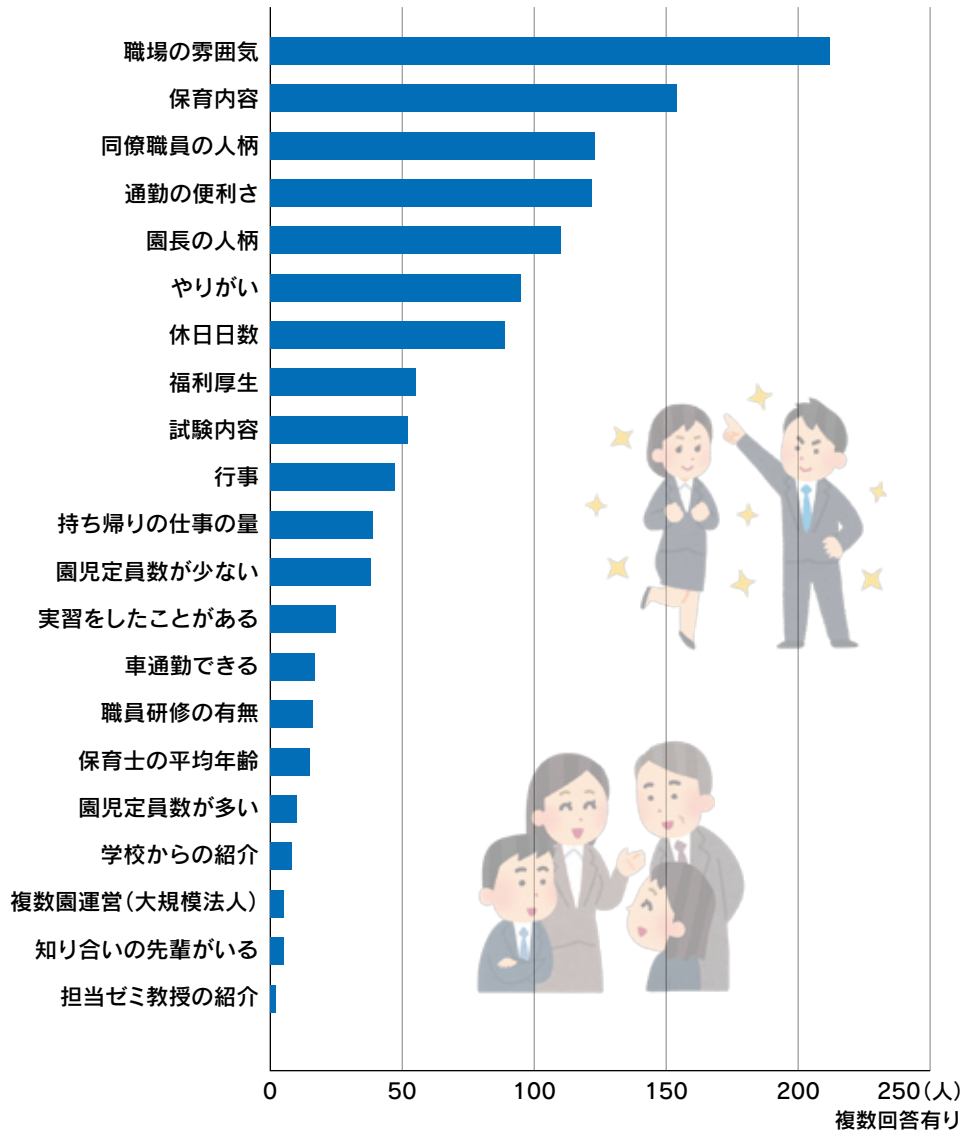
養成校の実習スケジュール、短大と大学のスケジュールの違い、学校毎のスケジュールの違いを踏まえて、大きく九月と十月に分かれました。夏休み以前の時期を希望する意見として、自主実習の参考にしたいという要望は参考になると思います。七十%以上が日曜を希望したことで、今回の日曜開催は正解でした。学校の授業や実習が重ならないこと、予定を立てやすいことで、やはり日曜開催がもっとも人が集まりやすいと言えるのではないのでしょうか。

ほとんどの参加者が職場の雰囲気や職場を重視しているという結果が出ました。必然的に、保育園のブース説明も「雰囲気がいい」と感じてもらった園がいい印象として名前を挙げられています。次に保育内容が挙げられます。次に保育内容が挙げられています。今回のフェアが各園の保育内容や特色を見極めるいい機会になっ

ていたことも要因として考えられます。そのほかでは、職員や園長の人柄を重視する回答が上位にあることで職場の雰囲気を重視する全体的な傾向が見られます。その中で、通勤の便利さが四位にきていることは保育園の通勤方法（立地場所）に対する関心や質問として現れていたと思われま

すが、「いい保育園の、いい雰囲気で、楽しく働きたい」という職場環境志向が上位を占めています。重視する内容は年齢とともに変化していきませんが、求職者が志向している就職先とできるだけミスマッチのないよう、今後の園見学や自主実習に繋げていただきたいと思います。（青年部 古賀圭一郎）

保育園を選ぶにあたって重視すること




青年部三十周年記念式典 及び祝賀会開催

福岡市保育協会青年部は昭和六十一年十一月二十一日の創部以来、創立三十周年を迎え、昨年十一月二十日に記念式典及び祝賀会をホテル日航福岡にて開催いたしました。議員の先生方や市内園長先生、全国の青年部の方々等、総勢百三十名を超える皆様にご参集いただき、盛会に終えることが出来ました。この場をかりて改めて御礼申し上げます。



左から3代目部長 長尾保育園 水城一俊先生。2代目部長 つばみ保育園 大浦純平先生。初代部長 高美台保育園 古賀貞雄先生。最後に祝い目出度で締めくくっていただきました。

今現在青年部部員は四十四名在籍しており、通常年間六回の研修会を開催しています。将来自園を担っていくために、この時期何が必要なのか、何を学ぶべきなのか

を考えながらお互いに意見を出し合い研修会を行っています。今年度の研修は「さあ、子どものはなしをしよう」というテーマで進めています。保育園を取り巻く環境が様々に変化をしても、子どもを真ん中において「子どもの話をしよう」「保育の話をしよう」という部員達の熱い思いで研修会を重ねています。

この「子どもの話」「保育の話」という思いは、五年間続く東北支援の中で私たちの心に植え付けられたものかもしれません。福岡から元氣と笑顔を届けようと始まった訪問支援でしたが、訪問する度に、岩手の先生達に、子どもの命を預かり守る責任、保育ができることの尊さ、素晴らしさを学ばせて頂きました。当たり前のように毎日子どもと接していることが、実はその一瞬一瞬が尊いものであるという事を心に刻み、部員一同今後の保育に活かし続けていきます。

諸先輩方が築いてきた福岡市の保育をしっかりと踏襲し、めまぐるしく変わる保育情勢に臨機応変に対応できる力を持っているのが

青年部です。「Challenge & Try」。困難に挑戦していく心意気を持ち、実際に行動していく事。この心を忘れずに今後も青年部の伝統の一翼となれるよう研鑽を積んでいく所存です。



記念講演講師の藤重佳久先生。精華女子高校吹奏楽部顧問として全国で数々の賞を受賞しCD【熱血!ブラバン少女】も発売。講演では「音楽を通じた人間教育」をお話し下さいました。現在は長崎・活水大学特任教授。

最後になりますが、今後とも福岡市保育協会青年部に対しこれまで以上にご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

※将来園を担っていく四十五才以下の若手保育者の皆様、私たちと一緒に保育を熱く語りませんか？入部お待ちしております。



『ルポ 保育崩壊』 学習会と講演

2015年秋に「ルポ保育崩壊」の読書会を全4回にわたって行いました。1章毎に担当者が、感想を交えた要約を発表する形で行われ、3回で読み終えました。発表者が気になった部分について述べる中、本を片手にうなずきながら聴かれる園長先生がたの姿が印象的でした。質疑応答には活気があり、全員が意見を述べた回もありました。最終回は著者である小林美希さんご本人のご講演で、福祉プラザの1階ホールが一杯になりました。

小林さんは、ルポの印象とは異なり、物腰柔らかく親しみやすい笑顔が素敵でした。講演後、どろんこ保育園の夜間保育に興味を持たれ、見学可能と知るとその足で向かうパワフルな女性でもあります。研究熱心な方でもあり、園長先生方のご意見は全て「勉強になる」「現場の人たちの言葉は大切」と真摯に耳を傾けときおりメモを取られていました。

そんな小林さんの本は、保育業界の抱える問題を保育士、利用者、経営者など様々な関係者の立場から捉えています。本筋ではありませんが、私たちが当たり前にしていることを利用者が快く思っていないこともある、ということも発見でき読んで良かったと思います。



著者からのメッセージ



「ここに子どもを預けていて、大丈夫なのだろうか」

待機児童が多い中で狭き門をくぐりぬけて保育所が決まっても、自分の子どもが通う保育所に不安を覚え、一安心とはいかない現実がある。

それもそのはずだ。ふと保育の現場に目を向ければ、親と別れて泣いている子どもが放置され、あやしてももらえないでいる。食事の時にはただの作業のように「はい、はい」と、口いっばいにご飯を詰め込まれ、時間内に食べ終わるのが至上主義のように「早く食べて」と睨まれる。楽しいはずの公園に出かける時は「早く、早く」と急かされる。室内で遊んでいても、「そっちに行かないで」と柵の中で囲われ、狭いところではか遊ばせてもらえない。「背中ぺったん」「壁にぺったん」と、聞こえは可愛いが、まるで軍隊のように規律に従わされる子どもたち。

いつしか、表情は乏しくなり、大人から注意を受けたと思うと、機械的に「ごめんなさい」と口にするようになっていく……。ここに子ども

の人権は存在するのか。当然、子どもの表情は乏しくなっていく。その異変に気付いた親は、眉根を寄せて考えるしかない。特に母親ほど「この子のために、仕事を辞めた方がいいのではないか」と切迫した気持ちになる。

保育所に子どもを預けるだけでなく、女性の場合は特に妊娠中からさまざまなハードルを乗り越えての就業継続となる。妊娠の報告をする際に、まず「すみません」と謝る職場環境のなか、4人に1人は「マタニティ・ハラスメント(マタハラ)」に逢っている。やっとの思いで保育所が決まって復帰しても、安心できない。これでは、まるで「子どもが心配なら家で(母親が)みろ」と言わんばかりの環境ではないか。筆者の問題の出発点はそこにある。保育が貧困なことで、女性の就労が断たれる現実がある。

保育所の見方は立場によって変わる。働く側から見た保育所という職場はどうか。筆者は機会あるごとに保育士の労働問題に触れてきたが、このように保育の質が低下しているのは、待機児童の解消ばかりに目が向き、両輪であるはずの保育の質、その根幹となる保育士の労働条件が二の次、三の次となっているからだ。保育所で働いている保育士は、約40万人いる一方で、保育士の免許を持ちながら実際には保育士として働いていない「潜在保育士」は、約60万人にも上る。その多くは、仕事

に対する賃金が見合わない、業務が多すぎることを理由に辞めている。

特に、株式会社の参入は保育の質の低下を著しくしたのではないか。これまで保育の公共性の高さから社会福祉法人が民間保育を担ってきたが、2000年に株式会社参入が解禁され、その影響は大きい。その後発足した小泉純一郎政権は、雇用だけでなく保育の規制緩和も次々と推し進めていたのだ。そのことで、現在の親世代の雇用は崩壊し、生まれた子どもたちの保育は崩壊しつつあるという、親子で危機的な状況にさらされている現状がある。国の未来を左右する子ども保育の予算は、国家予算のなかで国と地方を合わせてもたった0.5%ほどしかない。

2015年度から、「子ども・子育て支援新制度」が始まり、保育所の仕組みががらりと変わった。政府は特に「認定こども園」を推進するが、本当に利用者や働く側に立った制度なのか。どの保育所であっても、教育を受けて現場でも経験を積み、プロとしての保育を実践できなければ、運・不運で親子の一生が左右されかねない。その状況を変えるためにも、今、保育所で起こっている問題を直視し、周囲の大人に何ができるかを考えたい。保育士も親子も笑顔で過ごすことができるように。

出典：岩波書店ホームページから
<http://www.iwanami.co.jp/>

リレー回想 東京の保育事情

社会福祉法人清風会 東かなまち保育園 山田 康司



東かなまち保育園の山田と申します。そんな保育園は知らないという声が、聞こえてきそうですが、三年前まで福岡市保育協会会員で、香住ヶ丘保育園の園長をしておりました。昔のよしみで、つぼみ保育園の大浦先生よりこの欄を書けと依頼がありましたので、このようなことになりました。私もかつて、「保育ふくおか」の編集委員をしたことがありますが、原稿集めの苦勞を考えるとお断りもしく、筋違いとお感じになるかもしれませんが書かせていただきます。

「回想」ということで、昔ばなしから始めさせていただきます。平成になる数年前、ある経緯で香住ヶ丘保育園園長を引き受けることとなりました。それまで一般企業で働いていましたので、社会福祉のことを一から学ぶため、仕事を終え、バスで専門学校に通ったり、通信教育を受けたり、研修を受講し園長になりました。子どもの命を預かるということ、緊張したことを覚えています。

当法人理事長から、大浦先生や高美台保育園の古賀先生のご指導を受けるようにと命ぜられました。両先生には、公私ともに多大な薫陶を受けました。感謝しています。また、青年部に入らせていただき、同年齢の先生方とざっくばらんなお話ができたことは本当に有意義でした。現在と比べて保育園の数の減少は、香住ヶ丘保育園の定員も百四十名になった頃でした。この百四十名を満たせるか心配で、入園前に確認の電話を入れたりもしました。今の定員数を考えると、隔世の感があります。

現在勤務している東かなまち保育園は、平成二十五年度に開設した、東京都葛飾区にある特別養護老人ホームと合築になっている新しいタイプの複合施設です。社会福祉の世界に入ってから三十年ですが、その間、半分程は高齢者の施設で勤務しています。その後、再び保育の世界に戻ってきましたが、この両方を経験したということで、現在の施設につながりました。子どもと高齢者の施設運営のノウハウがある法人というのが行政の指名条件でした。新しい施設を創るといえるのは、それはそれで楽しいのですが、場所が東京というのはちょっとネックでした。施設がある葛飾区金町は、東京都といっても下町で、隣町の柴又はフーテンの寅さん、また反対側の隣

町の亀有にはこちら亀の両さんが住んでいるような地域です。福岡から職員有志を連れて行きましたが、子どもが博多弁を覚えて困ると言われたこともあり。葛飾区は博多区より少し広く平らな区で、人口約四十五万人、保育園は八十七ヶ園(分園除く)約半数が公立です。認定こども園が三ヶ園、その他東京独自の認証保育園が十ヶ園ほどあります。来年度も六ヶ園開設予定です。その大半が株式会社立で、葛飾区でも初めて参入してきます。人口の割に園数が多く、当園の半径300m以内に三ヶ園(一番近い園は1ブロック先に見えています)、1km以内でしたら十ヶ園以上あります。葛飾区内では平均定員が百名程度の小さいサイズの園が多く、もともと敷地が狭いうえに増築等で、園庭と言えぬものを持っている園は非常に少なくはなっています。当園は定員百三十名(これでも大きいですが、と言われます)、特養が全て個室の定員百六十名。五階建ての大型施設となっています。幸い敷地が広いので、保育園も基準面積以上の屋外遊戯場を確保でき、区内の園ではほぼ無い駐車場も準備できました。園庭には私のわがままで天然芝を張らせていただきました。おかげでメンテナンスは苦労していますが、気持ち良い空間を確保しています。屋上からは、スカイツリーは勿論、冬の空

気が澄んだときは富士山もはるかに見えます。東京は福岡以上の保育士不足で、三月三十一日まで面接していたと嘆く園長先生もおられました。対策として、今年度末から借上住宅補助ができる見込みです。これで、東北、九州という遠隔地からも採用しようという園も増えるのではないのでしょうか。当園は、実員百四十八名が入所しています。国基準では保育士十六名程度ですが、配置保育士は実員四十名、常勤換算で三十二名以上います。看護師も必置ですが、配置補助はあります。各種加配があり、特に十一時間保育加配は、当園で常勤二名、非常勤十名を雇用できます。職員数が多いため人件費比率は、運営費に対し昨年度で1.15%を超えています。東京では保育は公がやるものという前提があり、福岡の常識から考えられない相当額の補助金があります。

私自身は、あと何年頑張れるかわかりませんが、福岡の食べ物も懐かし、東京オリンピックは福岡で見ているか、東京なのかなどと考えています。後半は回想ではなく東京レポートになりました。興味のある方はホームページをご覧ください。東区の園長会も当園をご訪問いただきましたが、東京に来られなかった際は、お声掛けいただければ、東京のいずれの園でもご案内いたします。

編集後記

今冬は暖冬と思っていましたら、突然の寒波襲来。福岡は記録的な寒さに襲われました。これまで暖かい日が続いていただけに不意を突かれた感じがします。不意を突かれたと言え、保育所保育指針改定問題です。「保育所保育指針改定問題」という情報に接したのは、昨年の十二月のことでした。それまで全く知りませんでした。「覆耳に水」と言いたいところですが、本当にびっくりしていました。言い訳が許されるなら、福岡市保育協会が補助金削減問題でこの一年間追われ、この改定問題に手が回らなかったというのが正直なところです。

今回の改定は十年に一度の改定。すでに昨年の十二月には一回目の検討会が開催されています。今年になって一月早々に二回目の検討会が開かれ、春先には「中間報告」が作られるということ。前回の改定の際は、保育団体も各県に呼びかけ、検討会が作られたと聞いています。福岡市においても保育士会を中心に議論を重ねたようです。

「これではいけない!」と思い、一月に園長研究会を立ち上げ、学習会を二回開きました。参加者は二十人前後とそれほど多くありませんでしたが、園長会と保育士会が協力し、どうにか意見書をまとめました。本来なら保育所保育指針の学習をしっかりとやってから、改定の問題に取り掛かるべきだったのですが、あまりにも時間がありませんでした。十分な検討作業とまではいきませんが、組織的に取り組めることができたということは評価できるのではないかと感じています。

(西尾)